

第 2 章

氣 象

第 2 章 気 象

概況(平成14年)

1 月

この月は、上旬の前半は、上空に強い寒気が流れ込んだため、この冬一番の寒さとなり強風が吹いた。その後は寒気の南下が弱く概ね高温で経過したため、月平均気温は統計開始以来4番目に高い記録となった。中旬の中頃以降は低気圧が周期的に通過し、下旬にはこの時期としてはまとまった雨が降った日があった。

2 月

この月は、移動性高気圧に覆われて晴れる日が多かった。冬型の気圧配置は一時的で、月平均気温は府下全域で平年より1以上高くなった。月降水量は府下全域で平年より少なく、特に北部では平年の3割程度であった。

3 月

この月は、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。一時冬型の気圧配置となる日もあったが、寒気の南下が弱く各旬とも高温で経過した。月平均気温および月間日照時間は、府内の全観測地点で統計開始以来の最も高いおよび多い記録となった。

4 月

この月は、天気は周期的に変化し、低気圧が日本海や日本の北を通過することが多かったため南風が吹きやすく、気温の高い日が多かった。大阪では2日に今年初めての夏日となった。また、低気圧や前線の影響を受けやすかったものの、大きな崩れにはならず、降水量は少なく経過した。

5 月

この月は、寒気の影響が少なく太平洋高気圧の勢力も平年より強かったため、上旬を中心に高温となった。上旬と中旬は低気圧や前線が日本付近を通過することが多く、曇りや雨の日が多かった。下旬は高気圧に覆われて晴れる日が多かったが、寒気を伴った低気圧の影響で北部を中心に局地的に雷やひょうを伴った大雨となる日があった。

6 月

この月は、上旬は移動性高気圧に覆われて晴れの日が多かった。中旬以降は梅雨前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多かったが、月降水量としては府下の全観測地点で平年を下回った。また、月の半ば過ぎまでは気温が高く、真夏日となった日数が平年の約3倍の15日であった。なお、近畿地方は6月11日頃梅雨入り(平年6月6日頃、昨年6月5日頃)した。

7 月

この月は、上旬から中旬にかけては梅雨前線や台風(6号、7号)の影響で曇りや雨の日が多かったが、梅雨前線は不活発な日が多かった。下旬は太平洋高気圧に覆われて晴れの暑い日が続いた。なお近畿地方は、7月20日頃梅雨明け(平年7月19日頃、昨年7月19日頃)した。

8 月

この月は、太平洋高気圧に覆われて晴れの暑い日が多かった。中旬の終わり頃から下旬の中頃までは、北からの寒気が南下したため気温は平年を下回る日が続いた。下旬には台風15号の影響でまとまった降水があったが、全般には高温傾向で少雨となった。

9 月

この月は、上旬初めは太平洋高気圧に覆われて晴れの日が続いたが、その後は秋雨前線が本州付近にまで南下するようになり、天気は周期的に変わった。低気圧や前線の影響で曇りや雨となる日もあったが、まとまった降水とはならず、月全体としては高温傾向で少雨となった。

10 月

この月は、天気は周期的に変わり、中旬を中心に高気圧に覆われて晴れる日が多く、気温は高くなったが、下旬は低気圧の通過後に冬型の気圧配置となる日が多く気温は低く経過した。また、台風21号や低気圧の影響で上旬の降水量は平年を上回ったが、月を通しては平年並みとなった。

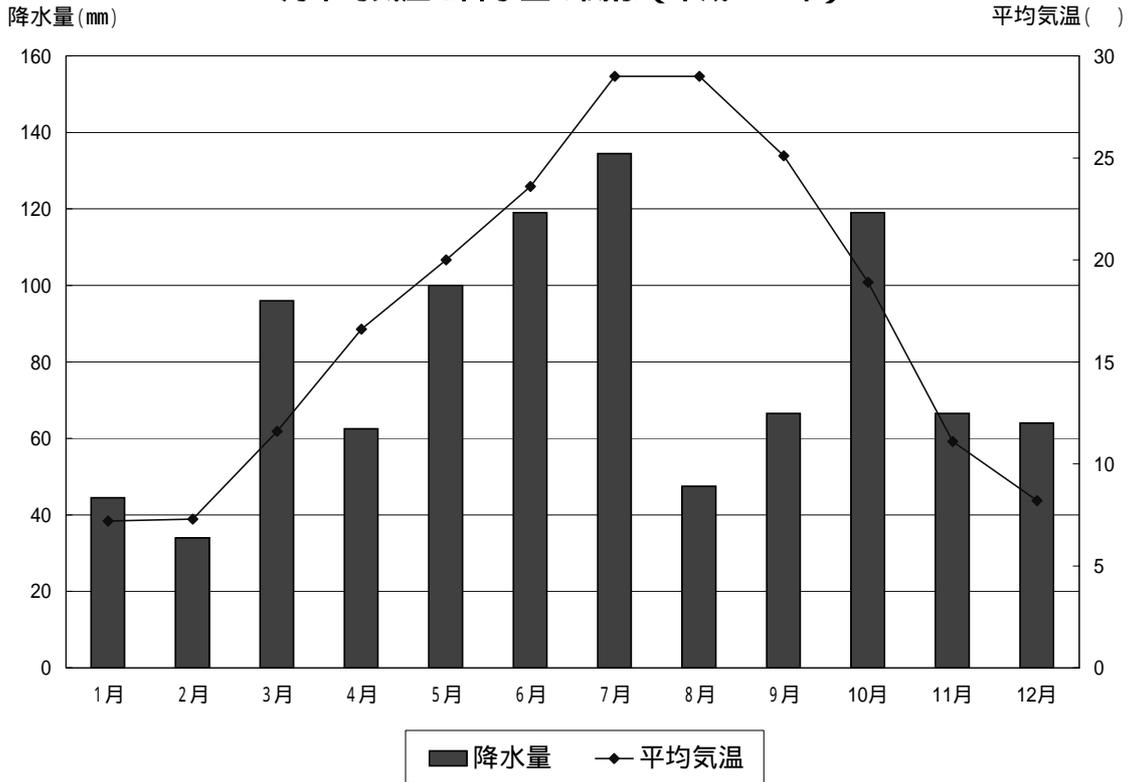
11 月

この月は、日本付近に強い寒気が南下し冬型の気圧配置となる日が多かった。特に上旬は、真冬並みの強い寒気が南下し冬型の気圧配置が強まった。その後、天気は周期的に変わり高気圧に覆われて晴れる日もあったが、気温は平年を下回る日が多く、11月の平均気温としては統計開始以来の最も低い記録と並んだ。

12 月

この月は、上旬の後半から中旬の前半にかけてと、下旬に強い寒気の南下があるなど、数日の周期で気温の高い時期と低い時期が交互に現れ、寒暖の変動が大きかった。15日に初霜(平年より16日遅く、昨年より3日遅い)、初氷(平年より4日遅く、昨年より8日早い)を観測し、26日には初雪(平年と同じ、昨年より7日早い)を観測した。

月平均気温と降水量の関係（平成14年）



月別日照時間（平成14年）

